

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】 伝統校（1906～）、総合学科（1996～）、共生推進教室設置校（2020～）の3つが揃う日本唯一の高校としての強みを生かし、校訓「誠実剛毅・和親協同」のもと、「磨け知性・輝け個性」の理念を掲げた教育を実践し、様々な社会的変化をたくましく乗り越えるための知性や体力、自分らしさや他者への思いやりを大切にする豊かな心と健やかな身体を育み、大きな夢と高い志を持って持続可能な共生社会を創る人材を育成する学校。 【生徒に育みたい力】 ○伝統校として…「誠実剛毅」の校訓のもと、大きな夢と高い志を持ってタフに学び続け、自らの進路を切り拓く力。 「和親協同」の校訓のもと、自主自律の精神を重んじて、ともに切磋琢磨し、清清流刺とした校風を創る力。 ○総合学科高校として…「磨け知性・輝け個性」を理念とし、学際的な学びを通じて個性を伸長し、自ら問いを立てて行動し、新たなものを生み出す力。 ○共生推進教室設置校として…ともに学びともに高め合う感性と高い人権感覚を育み、多様性を尊重し、「人・社会・世界」と繋がり共生社会をリードする力。
--

2 中期的目標

1. 労働安全衛生管理体制の充実及びV(変動性)U(不確実性)C(複雑性)A(曖昧性)の時代を乗り越える教職員集団「チーム今宮」の形成 (1) 大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき 働き方改革を推進する。 ア 校務運営について業務の見直しやICTを活用した会議運営や情報共有等の業務の効率化や生産性の向上を進める。 イ 部活動方針を遵守し、適切な休養日等を設定し、適切な指導・運営体制を構築する。 ウ ゆとり週間等の取組みを通じて、休暇を取得しやすい環境を整備する ※ 年間の時間外在校等時間が720時間を超える教育職員をゼロにする。 月の時間外在校等時間が45時間を超える月がある教育職員数を令和10年度には5人以内にする（R5:37、R6:32、R7:29）。教職員自己診断「本校は有効的にICT機器を活用している」で95%以上を維持する（R5:98%、R6:100%、R7:98%）。ストレスチェックの総合指数90以下を維持する（R5:76、R6:68、R7:75）。 (2) めざす学校像や育てたい生徒像の実現に向けて、すべての教職員が相互に資質を高め合う同僚性の高い職場づくりを進める。 ア 分掌・学年・教科の持続可能な協働体制を確立し、すべての教職員が主体的に学校運営に参画し働きがいを感じる教職員集団を組織する。 イ すべての生徒の安全・安心を確保し、様々な危機管理体制を整備するとともに、SCやSSWを活用する等、生徒との対話を重視した体制をつくる。 ウ 喫緊の課題に対応できるO（観察Observe）O（情勢判断Orient）D（意思決定Decide）A（行動Act）ループを可能にする教職員集団をつくる。 エ 人権教育や防災教育、授業改革やICT活用の推進、生徒指導や進路指導のスキル向上など教職員の資質向上に寄与する研修を効果的に実施する。 ※ 教職員自己診断「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性を高め、協力して教育活動を行っている」の肯定率を令和10年度には88%以上にする（R5:84%、R6:85%、R7:84%）。「運営委員会は十分に機能している」で90%以上を維持する（R5:96%、R6:96%、R7:96%）。「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」で90%以上を維持する（R5:90%、R6:92%、R7:92%）。「生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている」で90%以上を維持する（R5:96%、R6:98%、R7:96%）。「本校は計画的に人材育成を行っている」で85%以上を維持する（R5:73%、R6:84%、R7:90%）。「いじめ防止基本法に基づいて、いじめについて適切に対応している」で95%以上を維持する（R5:98%、R6:100%、R7:98%）。「本校は地震や災害の際の対応を十分に知らせている」で92%以上を維持する（R5:92%、R6:90%、R7:98%）。「施設・設備については日常的に点検や管理が行われている」で90%以上を維持する（R5:96%、R6:85%、R7:94%）。生徒自己診断「先生方は生徒の意見をよく聞いてくれる」の肯定率を令和10年度には85%以上にする（R5:80%、R6:82%、R7:82%）。「本校では地震や火災の際の対応は知らされている」で90%以上を維持する（R5:79%、R6:86%、R7:90%）。 (3) 社会に開かれた学校づくりの推進 ア ホームページを充実させ、SNS、配信動画サービスを活用するとともに、学校説明会や中学校訪問を充実し、本校教育実践の公開に努める。 イ 対面形式に加え、学習支援クラウドサービスやメール配信サービスを利用した保護者への情報発信をきめ細やかに行う。 ウ PTA、同窓会との連携を強化し、力を合わせて魅力ある学校づくりを進める。 エ 土曜教養講座や地域連携の取組みを充実し、地域に貢献する学校づくりを進める。 ※ 保護者自己診断「学校のホームページなど広報活動は充実していた」の肯定率90%以上を維持する（R5:85%、R6:95%、R7:97%）。「学校は教育情報について提供の努力をしている」で90%以上を維持する（R5:86%、R6:90%、R7:92%）。「PTA活動は活発である」で90%以上を維持する（R5:93%、R6:95%、R7:95%）。生徒自己診断「本校は様々な地域の活動に参加・貢献している」の肯定率で80%以上を維持する（R5:72%、R6:81%、R7:88%）。 2. 「誠実剛毅」×「磨け知性」…誠実な態度で学びに向かい、剛毅な姿勢で学び続け、高い志を持って自らの進路を切り拓く力を育成する。 (1) 高い知性と確かな学力の育成 ア 「知識・技能」を礎に「思考力・判断力・表現力」を重点的に育成し、「主体態度」を養う授業実践を進める。 イ 1人1台端末等のICTや学習支援クラウドサービス、Web会議システム等の活用を推進し、すべての生徒の基礎学力の定着を図る。 ※ 生徒向け学校教育自己診断（以下生徒自己診断）において、「先生方は教え方に工夫をするなど授業に熱心」で肯定率90%以上を維持する。（R5:86%、R6:86%、R7:91%）。「授業で自分の考えをまとめたり発表したりすることがよくあった」で90%以上を維持する（R5:93%、R6:90%、R7:91%）。「本校は有効にICT機器を活用している」で肯定率を92%以上にする（R5:90%、R6:92%、R7:88%）。 (2) 豊かな知性を磨く教育課程の編成 ア 教科横断的で学際的な学校設定科目の設置等、総合学科の特長ある教育課程を編成し、包括的に事象を捉える能力を伸長し論理的思考力を養う。 イ 学習指導要領、高大接続改革に対応した多様な分野の進路実現を可能にする教育課程を編成し、きめ細やかな科目選択指導を行う。 ※ 生徒自己診断「科目選択の決定についての説明や相談は十分であった」の肯定率88%以上を維持する（R5:85%、R6:89%、R7:89%）。「選択科目について選びたい科目を選べた」で86%以上を維持する（R5:86%、R6:87%、R7:88%）。「選択科目は自分の進路選択とのつながりに満足している」で86%以上を維持する（R5:80%、R6:86%、R7:88%）。 (3) 主体的に粘り強く学び続ける力の育成 ア 学びが中心の規則正しい生活習慣を確立させ、全ての授業について主体的に意欲をもって粘り強く取組む態度を養う。 イ 学力生活実態調査や教育産業による学力分析システムを活用し、生徒一人ひとりの学習状況や課題を把握し、適切な指導や支援を行う。

- ウ 自習室や学校図書館等の学びの環境整備を進めて積極的活用を促し、生徒の自学自習を支援する。
- ※ 遅刻者数を令和10年度に2,700回以下にする（R5:4,056回、R6:3767回、R7:2965回）。生徒自己診断において「学ぶことの意味について考え授業を大切にするようになった」の肯定率で86%以上を維持する（R5:82%、R6:86%、R7:89%）。「家庭学習を毎日した」を令和10年度には55%以上にする（R5:36%、R6:36%、R7:45%）。

（4）キャリア教育の充実及び進学実績の向上

- ア 3年間を見通した進路指導によって高い目標と明確な目的意識を育成し、生徒の興味・関心、適性・個性に応じた進路選択を支援する。
- イ 大学や企業等との連携、専門的知識や技能を有する人材の活用等の体験型進路学習を充実し、生徒の主体的なキャリア形成を支援する。
- ウ 国公立大学や難関私立大学進学を目標とする指導を充実し、進路指導部が統括する組織的な進学講習や教育産業の講習の活用等、学力向上を促す。
- ※ 生徒自己診断において「今宮総合学科で学んで自分の進路選択ができた」の肯定率90%以上を維持する（R5:81%、R6:88%、R7:92%）。
「働くことの意味や職業について考え、理解が深まった」で88%以上を維持する（R5:84%、R6:87%、R7:90%）。「学校の授業・講習等だけで進路実現に必要な力がついた」で85%以上を維持する（R5:67%、R6:83%、R7:87%）。「大学について理解することができた」で90%以上を維持する（R5:88%、R6:91%、R7:93%）。
- ※ 京大・阪大・神大・大阪公立大などの国公立大学への合格者数を令和10年度には40名以上とする（R5:25名、R6:25名、R7:22名）。
- ※ 関関同立+近、早慶上+MARCHの合格者の合計240名以上とする（R5:122名、R6:268名、R7:181名）。

3. 「和親協同」×「輝け個性」…自主自律の精神を重んじて、ともに切磋琢磨し、清澄澁潤とした校風を創る力の育成

（1）自主自律の精神の醸成

- ア 18歳成年を認識し、規範意識の向上など社会の一員としての基本的姿勢を養い、集団生活において責任をもった議論や行動ができるよう育成する。
- イ 消費者教育の充実やゲームやギャンブル等に依存しない教育を推進するとともに、健全で適切な勤労観や職業観を醸成する。
- ※ 生徒自己診断において「自分は積極的にルールの遵守やマナーの向上に努めた」の肯定率90%以上を維持する（R5:93%、R6:92%、R7:91%）。「今宮高校で学んで人として成長した」で90%以上を維持する（R5:88%、R6:90%、R7:93%）。

（2）生徒自治会を中心とした組織的な学校行事の企画・運営等による将来をみすえた自主性・自立性の育成

- ア 生徒自治会主催の学校行事等において、民主的で組織的な企画・運営が遂行できる生徒集団を育成する。
- イ 生徒による「服装自主規制」の精神を尊重し、生徒の規範意識やマナーの向上を生徒自身が考え行動する態度を養う。
- ※ 生徒自己診断において「学校行事やホームルームは活発で積極的に関わった」で85%以上を維持する（R5:83%、R6:86%、R7:88%）。「自分は文化祭や体育祭などの学校行事に積極的に参加した」で90%以上を維持する（R5:91%、R6:91%、R7:94%）。

（3）部活動基本方針が遵守され、地域に貢献する部活動の推進

- ア 自主性を尊重し、部活動基本方針を遵守した部活動の運営を推進する。

- ※ 部活動にかかる時間外勤務時間が年間720時間を超える教員ゼロを維持する。（R5:2名、R6:6名、R7:0名）。

- イ 部活動による学校間連携や地域連携や活動の成果を発表する機会を拡充し、生徒が主役の魅力ある学校づくりを推進する。

- ※ 「本校は部活動基本方針に沿って部活動が行われている」を令和10年度には90%以上にする（R5:83%、R6:84%、R7:87%）。

4. 自ら問いを立てて行動し、新たなものを生み出す力の育成

（1）探究学習の充実

- ア 1年次「産業社会と人間」及び2、3年次「未来探究」において、「問いを立てる力」、「考える力」、「まとめる力」、「発信する力」を育成する。
- イ SDGsについて当事者意識をもって取組み、地域や大学と連携して審査や助言を受けながら学びを深め、高いレベルの発表ができるよう指導する。

（2）情報リテラシーの育成

- ア 正しい情報を収集、選択、活用する知識と技能を習得し、体験や経験に基づくオリジナリティ性をもって編集、発信する能力を育成する。
- イ 生成AIなどの新たな技術やサービスを適切に利活用する資質を養う。
- ※ 生徒自己診断「自ら課題を発見し、自分の身の回りから社会を変革する力がついた」の肯定率80%以上を維持する（R5:72%、R6:78%、R7:83%）。
『産業社会と人間』や『未来探究』では探究的な学びができた」で88%以上を維持する（R5:84%、R6:88%、R7:91%）。

5. 多様性を尊重し、「人・社会・世界」と繋がり共生社会をリードする力の育成

（1）共生推進教室を中心に仲間づくりを進め、「ともに学び共に育つ」インクルーシブ教育を推進する。

- ア インクルーシブルーム、リラックスルームを活用した生徒の居場所づくりを進め、支援教育及び教育相談に係る教育力向上や体制づくりを進める。
- イ インクルーシブ委員会や「仲間の会」を中心とした総合学科と共生推進教室の生徒との交流を深め、地域を交えたイベントを開催する。

- ※ 生徒自己診断『「ともに学びともに育つ」大切さを学ぶ機会があった』の肯定率を令和10年度には92%以上にする（R5:85%、R6:89%、R7:90%）。
「互いに認め合い協力して良いクラスづくりを進めることができた」で90%以上を維持する（R5:85%、R6:89%、R7:92%）。「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる」で75%以上を維持する（R5:66%、R6:74%、R7:75%）。保護者自己診断「子どもは心身の健康について気軽に先生に相談できた」の肯定率75%以上を維持する（R5:68%、R6:70%、R7:77%）。

（2）さまざまな人権問題に取り組み、自他の尊厳や多様性を尊重し、互いの違いを認め合い共に生きる教育を推進する。

- ※ 生徒自己診断「命の大切さや社会のルール、人権を尊重することの大切さについて学ぶ機会があった」で92%以上を維持する（R5:92%、R6:95%、R7:95%）。

（3）国際交流活動の充実及び外国語運用能力の向上

- ア アメリカ、台湾の姉妹校との交流を通じて親交を深め、異国の文化や伝統等を理解し尊重する態度を養う。
- イ 対面での交流のほかオンラインによる海外の学生等との交流の機会を通じ、生徒の視野を広げ、地球規模の諸問題に挑戦する技量を養う。
- ウ 英語4技能を総合的に伸ばす英語教育を推進し、2年終了時までに英検2級レベル以上の英語運用能力の習得をめざす取組みを組織的に行う。
- ※ 「本校は国際交流に力を入れている」で92%以上を維持する（R5:90%、R6:93%、R7:95%）。「本校はSDGsの取組みを推進している」を令和10年度には85%以上にする（R5:77%、R6:78%、R7:81%）。
- ※ 英検2級以上の英語力を取得する生徒の割合を令和10年度には25%以上とする（R5:8.8%、R6:13%、R7:17.8%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価（〔 〕内は R 6 の数値）

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R 7 年度値〕	自己評価
1. 労働安全衛生管理体制の充実及び V（変動性）U（不確実性）C（複雑性）A（曖昧性）の時代を乗り越える教職員集団「チーム今宮」の形成	（１）大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づく働き方改革の推進 ア 業務の効率化や見直し	（１） ア ICT を活用した業務の効率化、行事や会議の精選を検討し、学校運営の見直しを図る。	（１） ア 年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教育職員をゼロにする〔0 人〕。	
	イ 部活動方針の遵守	イ 部活動の年間・月間活動計画、実績報告をもとに適切な休養日確保を徹底し、方針に則った適切な活動とする。	イ 年間時間外在校等時間が 360 時間超の人数を前年度より減少させる〔32 人〕。	
	ウ 休暇を取得しやすい環境整備の推進	ウ ゆとり週間・月間の徹底に 取組み年休取得を促進する。	ウ 年次有給休暇の平均取得日数を 16 日以上にする〔14 日〕。ストレスチェック総合指数 85 以下を維持〔75〕。	
	（２）同僚性の高い職場づくりの推進 ア 協働体制の確立	（２） ア 運営委員会を軸に分掌・学年・教科等の連携を強固にする体制を築く。	（２） ア 教職員自己診断「運営委員会は十分に機能」の肯定率 90％を維持〔96〕	
	イ 危機管理体制の確立	イ 校務分担の再構築を行い、生徒のセーフティネットの充実等、安全・安心に寄与する体制を整える。	イ 教職員自己診断「組織的に対応できる体制が整っている」の肯定率 90％以上を維持〔96〕。	
	ウ 職員研修の充実	ウ 喫緊の課題に関する職員研修を効率よく組み入れ。職員集団の機動力と緻密さを向上する。	ウ 教職員自己診断「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」の肯定率 85％以上を維持〔90〕。	
	エ 実働防災訓練の実施	エ 実際の場面を想定した実働防災訓練を実施し、発災時のチーム力を高める。	エ 教職員自己診断「地震や災害の際の対応を十分に知らせている」の肯定率 90％以上を維持〔98〕。	
	（３）開かれた学校づくり ア ホームページの充実	（３） ア 本校ホームページの更新数を増やし、内容を充実する。	（３） ア 保護者自己診断「ホームページは充実」の肯定率 90％以上を維持〔97〕。	
	イ 保護者連携の充実	イ 対面とオンデマンドを併用した説明会等により情報発信を充実する。	イ 保護者自己診断「教育情報提供の努力」の肯定率 90％以上を維持〔92〕。	
	ウ PTA、同窓会との連携事業の充実 エ 地域連携の拡充と充実	ウ 生徒を主役にした連携事業を充実し、生徒の教育活動を支援する。 エ 土曜講座の継続実施及び地域活動への生徒や教職員の参画等を積極的に行い、地域との連携を深める。	ウ 保護者自己診断「PTA 活動は活発」の肯定率 90％以上を維持〔95〕。 エ 生徒自己診断「様々な地域の活動に参加・貢献」の肯定率 80％以上を維持〔88〕。	
2. 誠実剛毅に高い志を持つて学び続け、自らの進路を切り拓く力の育成	（１）高い知性と確かな学力の育成 ア 授業改革の推進	（１） ア 「指導と評価の一体化」を進め、「思考力・判断力・表現力」の伸長を重視した授業改善を全校で取り組む。	（１） ア 生徒自己診断「先生方は授業に熱心」の肯定率 90％以上〔91〕、「授業で自分の考えをまとめ発表することがよくある」の肯定率 90％以上を維持〔91〕。 ・第 2 回授業アンケートの質問 8、9 の平均値 3.35 以上を維持〔3.405〕。	
	イ ICT 活用の充実	イ DX 加速化推進事業で整備した食堂スペースでの教育活動を実践する。	イ 生徒自己診断「有効に ICT 機器を活用」の肯定率 90％以上〔88〕。	
	（２）豊かな知性を磨く教育課程の編成 ア 特長ある教育課程の編成	（２） ア 「したい授業・学びたい授業」ができる教育課程策定のための資料の収集・分析し、課題と到達点を共有する。	（２） ア 教職員自己診断「めざす学校像実現のために教職員は同僚性を高め協力する」の肯定率 84％以上を維持〔84〕。	
	イ 科目選択指導の充実	イ 教科・学年・分掌の協働によるきめ細やかな科目選択指導を行う。	イ 生徒自己診断「科目選択の決定についての説明や相談は十分」の肯定率 85％以上を維持〔89〕。	

	（３）学び続ける力の育成 ア 規則正しい生活習慣の確立 イ きめ細やかな学習指導 ウ 自学自習習慣の定着 （４）キャリア教育の充実 ア 進路指導体制の充実 イ 体験型進路学習の充実 ウ 進学講習の充実	（３） ア 誠実剛毅に授業に向かう姿勢をつくる指導を全教員で行う。 イ 学力生活実態調査結果を分析し年間通してきめ細やかな学習指導を行う。 ウ 教育のあらゆる機会を捉えて、生徒の成長を促す。 （４） ア 分掌・学年・教科の協働による３年間の進路指導体制を確立する。 イ １年大学訪問や各分野で活躍する外部講師による学びを通じてキャリア形成を支援する。 ウ 教育産業による校内講習を導入する等、全校的な取組みとして進学講習を充実し、より高い学力向上を促す。	（３） ア 遅刻者数を前年度の 90％以下にする〔2965 回〕。 イ 生徒自己診断「授業を大切にしようになった」の肯定率 85％以上を維持〔89%〕。 ウ 生徒自己診断「家庭学習を毎日した」の肯定率 50％以上〔45%〕。 （４） ア 生徒自己診断「自分の進路選択ができた」の肯定率 90％以上を維持〔92%〕。 イ 生徒自己診断「働くことの意味や職業について考え理解が深まった」の肯定率 88％以上を維持〔90%〕。 ウ 生徒自己診断「進路実現に必要な力がついた」の肯定率 85％以上を維持〔87%〕、「大学について理解できた」の肯定率 90％以上を維持〔93%〕、国公立及び難関私立大学合格者の合計 240 名以上にする〔203 名〕。	
3. ともに切磋琢磨し、清澄深淵とした校風を創る力の育成	（１）自主自律の精神の育成 ア 規範意識の向上 イ 成人に求められる資質の育成 （２）生徒自治会活動の充実 ア 生徒自治会組織の強化 イ 自立した生徒集団の育成 （３）部活動の充実 ア 主体的な部活動の充実 イ 地域貢献の拡充	（１） ア 18 歳成年を意識した学び（権利と義務、政治参画等）を積極的に行う。 イ ２年次で外部講師による消費者教育を実施する他、健全な勤労観や職業観を醸成する取組みを行う。 （２） ア 生徒自治会組織による自立した学校行事等の企画・運営を行う。 イ 生徒が主体となって全生徒が安心できる居場所となるクラスや学校づくりを行える生徒集団を育成する。 （３） ア 基本方針に沿って運営し、生徒が主体の部活動の支援を行う。 イ 近隣の保育園等への出前演奏会や地域のイベントへの参加等、部活動による地域貢献の機会を拡充する。	（１） ア 生徒自己診断「積極的にルールへの遵守やマナーの向上に努めた」の肯定率 90％以上を維持〔91%〕。 イ 生徒自己診断「今宮高校で学んで人として成長した」の肯定率 90％以上を維持〔93%〕。 （２） ア 生徒自己診断「学校行事に積極的に参加」の肯定率 90％以上を維持〔94%〕 イ 「学校行事やホームルームは活発で積極的に関わった」の肯定率 85％以上を維持〔88%〕 （３） ア 生徒自己診断「部活動基本方針に沿った活動」の肯定率 88％以上〔87%〕。 イ 部活動等による地域貢献活動の回数述べ 12 回以上を維持〔20 回（R 7 は大阪・関西万博及び浪速区制百周年事業のため機会が平年より特に多かった）〕。	
4. 自ら問いを立てて行動し、新たなものを生み出す力の育成	（１）探究学習の充実 ア 問いを立てる力の育成 イ 探究学習の深化 （２）情報リテラシーの育成 ア 適切な情報の収集・選択・活用能力の育成 イ 編集・発信力の育成	（１） ア 総探・産社委員会と学年、進路指導部が協働し、３年間を見据えた効果的な学習プログラムを実践する。 イ 地域や同窓会、大学等の支援を受けながら学習する仕組みを作る。 （２） ア インターネットからの情報を適切に扱うとともに、実体験等それに頼らずに探究する力を育成する。 イ 学びの進化と深化をめざした生成 AI の利活用を推進するとともに、有効な根拠を持って独自性を発信する力を育成する。	（１） ア 生徒自己診断「自ら課題を発見し、社会を変革する力がついた」の肯定率 80％以上を維持〔83%〕。 イ 同窓会員等による「職業人バンク」を開設し、探究学習に活用する体制を構築する。 （２） ア 生徒自己診断『『産社・未来探究』で探究的な学びができた』の肯定率 85％以上を維持〔91%〕 イ 教職員自己診断「有効に ICT 機器を活用している」の肯定率 95％以上を維持〔98%〕。	

5.「人・社会・世界」とつながり共生社会をリードする力の育成	(1)インクルーシブ教育の推進 ア 共生推進教室の充実 イ 仲間づくりの推進	(1) ア 共生推進教室生のカリキュラム及び学習支援を充実し、インクルーシブ教育を推進する。 イ 生徒自治会組織に「インクルーシブ委員会」を設置し、モルック大会等の仲間づくりの機会を増やすとともに、互いの違いを認め合うクラスづくりに積極的に取り組む生徒を育成する。	(1) ア 生徒自己診断『『ともに学びともに育つ』大切さを学ぶ機会があった』の肯定率 88%以上を維持〔90%〕。 イ インクルーシブ委員会の新設。生徒自己診断「互いに協力して良いクラスづくりを進めることができた」の肯定率 90%以上を維持〔92%〕	
	(2)人権教育の充実 ア 体験的人権学習の充実 イ 職員人権研修の充実	(2) ア 様々な人権問題について、講演やフィールドワーク等を通じて当事者意識をもって行動する資質を育む。 イ 新年度当初に講師を招いて新着任対象フィールドワーク等の研修を実施する。	(2) ア 生徒自己診断「命の大切さや人権を尊重することの大切さについて学ぶ機会があった」の肯定率 90%以上を維持〔95%〕。 イ フィールドワークを含む職員人権研修年2回実施〔1回〕。大阪府人権白書「ゆまにてなにわ」の全職員配付〔R7 実施〕。	
	(3)国際交流の推進及び英語運用能力の向上 ア 姉妹校との交流の充実 イ 英語運用能力の向上	(3) ア アメリカ・Kamiak 高校、台湾臺東女子高級中学とのオンライン等を利用した交流や令和9年度訪問計画を立てる。 イ 1・2年英検受験を推奨し、英語運用能力向上の取組みを進める。	(3) ア 生徒自己診断「国際交流に力を入れている」の肯定率 90%を維持〔95%〕 イ 3年次 12 月末時点で英検 2 級以上の所有者生徒 40 人以上〔37 人〕。	